

4 ^{けんぼんちやくしよくびじんず}絹本著色美人図 ^{そがしやうはくひつ}曾我蕭白筆 1幅（絵画）

所有者 奈良市登大路町30番地 奈良県

所在地 奈良市登大路町10番地6 奈良県立美術館

縦107.3cm 横39.4cm 江戸時代（18世紀）

奈良県立美術館が所蔵する^{ゆら}由良コレクションの代表的作品として知られる曾我蕭白筆の美人図。曾我蕭白（1730～81）は江戸時代中期に活躍した京都の絵師で、自由奔放な画風で奇怪な道釈画を好んで描いた。本図は古典的題材によらず当世風の美人を画題とした異色の作。女性は虚ろな表情で口に破れた手紙をくわえてcでrおり、主題をめぐってはいくつかの解釈が試みられているが、観者に様々なイメージを喚起させるのは蕭白の多くの作例に見られる特徴である。製作年代は不明だが、印の欠損の状態や画風からみて蕭白の代表作、明和元年（1764）の^{ぐんせんずびやうぶ}「群仙図屏風」（文化庁、重文）と同時期の作と推定される。本図は蕭白の遺例の中でも珍しい濃彩美人図として高い価値を有するものである。

